

令和6年度第1回広島市食品ロス削減推進部会 議事要旨

- 1 日時
令和6年6月11日（火） 午後2時～午後3時
- 2 場所
広島市役所本庁舎14階第7会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員
伊藤 圭子（部会長）、古森 公人、佐々木 緑、西村 千賀子、原田 佳子（以上5名）
 - (2) 事務局（市）
環境局次長、環境政策課長、市民局生涯学習課長、市民局消費生活センター消費者政策企画担当課長、健康福祉局地域共生社会推進課長、健康福祉局健康推進課参与、経済観光局農政課長、教育委員会健康教育課主任指導主事、教育委員会指導第一課課長補佐、教育委員会指導第二課課長補佐
- 4 次第
 - (1) 開会
 - (2) 議事
報告 食品ロス削減推進計画に基づく施策の令和5年度実施状況等について
議題 食品ロス削減推進計画の骨子案について
 - (3) 閉会
- 5 公開・非公開の別
公開
- 6 傍聴人の人数
0名
- 7 会議資料
〈会議関係〉
 - 令和6年度第1回広島市食品ロス削減推進部会 配席表
 - 広島市食品ロス削減推進部会 委員名簿〈議事関係〉
 - 資料1 食品ロス削減推進計画に基づく施策の令和5年度実施状況等について
 - 資料2 食品ロス削減推進計画の骨子案について
 - 参考資料 食品ロスに関するアンケート調査結果

8 議事要旨

発言者	発言要旨
伊藤会長	・ 本日の議事は報告が1件、議題が1件である。事務局から説明をお願いする。
環境政策課長	【(報告) 食品ロス削減推進計画に基づく施策の令和5年度実施状況等についてを説明】
伊藤会長	・ 報告の説明について、御意見、御質問等があれば承りたい。
佐々木委員	・ 実施した食品ロス削減の施策については、どのくらい効果や結果が出ているのか検証する予定はあるか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの取組の効果検証については、目標を立てているものもあれば、定量的に効果が測れないものもあるので、目標があるものはそれに対する評価、ないものについては総体として食品ロス量を見て、どのような効果が出ているのかを検証することになると思う。 いずれにしてもどのような効果検証をするかは取組を進める中でそれぞれ検討していきたい。
佐々木委員	・ 実施した取組によって市民の皆様がどのように意識を変えているのか、目に見えて分かる方が次年度の取組に繋がると思うので、そのような結果を公開していただけたらと思う。
原田委員	・ 食品ロス削減推進サポーターは全国で何名くらい登録しているか。
環境政策課長	・ 少し古いデータになるが、令和5年7月中旬時点で1943人が登録されている。
原田委員	<ul style="list-style-type: none"> 例えば学生が何人登録しているかなど、内訳は分かるか。 食品ロス削減推進サポーターの制度は素晴らしいと思うが、実際このサポーターがどう活躍しているのかが全く分からない。 食品ロス削減推進サポーターの認証をもらったのはいいが、具体的にどう活動しているのか分からないのが実情だと思うので、広島市としても活躍の場を設けていただけたらと思う。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 登録の内訳のデータは手元にない。 以前も御回答させていただいた内容ではあるが、イベント等で協力をいただけたらと思っており、そういったことも含め、今後一緒にどのようなことができるか検討していきたい。
伊藤会長	・ 他に質問等ないようであれば、事務局から議題について説明をお願いする。
環境政策課長	【(議題) 食品ロス削減推進計画の骨子案についてを説明】
伊藤会長	・ 議題の説明について、御意見、御質問等があれば承りたい。
西村委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業系食品ロスのアンケートの対象はどこになるか。 家庭系の食品ロス量はどうやって算出しているか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの対象に製造業は含まれず、飲食店や小売店などが対象である。 毎年行っている可燃ごみの組成分析調査により、食品ロスの割合を算出し、可燃ごみの排出量の実績とかけあわせることにより、食品ロス量を推計している。
古森委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業系食品ロスのアンケートについては、657店舗の対象に対して223店舗の回収しかないということで、あまりにも少ないように感じる。設問⑤のてまえどりの実施が153店舗しか回答がなかったり、設問⑥で仕入れ・仕込みの最適化、販売機会の損失と顧客満足度の両立を挙げている店舗は回答店舗の半分くらいしかおらず、事業者として残念に思う。 また、アンケートの数値や実施状況の数値については、食品ロス量の推移のように何年分かの推移や前年度との比較をしてもらえると、どこをどのようにPRしなければならぬかが見えてくると思う。
環境政策課長	・ 御指摘を踏まえ、より分かりやすい資料作りをしたいと思う。

発言者	発言要旨
原田委員	<ul style="list-style-type: none"> 食品ロス量について、国の推計は家庭系と事業系はそんなに差がないと認識しているが、何故広島市はこんなに差があるのか。 全国に比べて極端に家庭系が少ない、事業系が多いなどあるのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 食品ロス量については、可燃ごみの組成分析調査の結果から算出しているものであり、ばらつきが出てくるため、必ずしも正確な実態を表すものではないと考える。 他都市の食品ロス量を見ると、例えば仙台市と比べると食品ロス量は同じくらいであるが、事業系よりも家庭系食品ロス量の方が多くなっている。 何故広島市がこのような状況なのかは、現状理由と紐づけてお答えできないが、もう少し細かく検証をしていきたいと思う。
原田委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業系食品ロスのアンケート調査について、設問⑤のところではフードバンクへの寄附が34店舗と少ない。フードバンクに対する注目度は上がっているが、食品が集まらずに悩んでいるフードバンクも多く存在するため、事業系の食品ロスを頂けると活動の推進にもなるので、もう少し活動の紹介などをしていただけたらと思う。
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料2の2ページ目の施策展開を見ると、面白いと思うのがいくつかあり、例えば食品ロス削減推進表彰の実施などは、より身近に感じられてよいと思う。 全体として充実していると思うが、10年間でどこに重点を置くのかが見え方がよいと思う。すべての施策が並列にあると、特色が見えない計画になってしまうので、長期的な視点に基づいて重点項目を定めたらよいと思う。 目標の設定に当たって、単年度当たり2%削減するとのことだが、広島市の現状によって目標の重みが変わってくる。元々少ないものをもっと頑張ろうといった話なのか、他都市より多く出ているので、減らすためにみんなで頑張ろうという話なのか、それがはっきりするだけでも認識が変わると思う。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 2ページ目の施策展開の御意見については、今までは意識啓発や普及啓発に主に取り組んでいたが、重点項目として、あらゆる主体と連携して取り組むことを軸にやっていきたいと思う。どのようなところを重点的にやっていくのか、読んだ人が分かるように、計画を作る際は工夫をしていきたいと思う。 削減目標については、他都市との比較は難しいところではあるが、御指摘を踏まえ、広島の実況がどうなっていて、どのような目標を目指すのかを計画に反映できるか検討する。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ㊦のマークなどが重点項目なのではないかと思ったが、そうではないのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> 結果的に、施策展開の㊦と㊦がアの「市民・事業者との協働による食品ロス削減の推進」に多くついているので、そういう認識になると思うが、御指摘を踏まえ、計画の作り方を検討したいと思う。
原田委員	<ul style="list-style-type: none"> 施策展開のフードシェアリングについて、他都市で具体的にやっている事例はあるか。 以前、講演会に参加した際、とある団体さんがスーパーから直接売れ残ったものを取りに行き、その講演会でその食品を配るということをやっており、これもフードシェアリングの一つと思われるが、フードバンクを介さずにやると効率はいいかもしいないが、衛生面等をしっかり気にしながらやらないといけないのではないと思う。 食品ロス削減に関して、教育というのは非常に重要だと思う。小学校や中学校

発言者	発言要旨
	<p>に行って講師を行うことがあるが、生徒は熱心に耳を傾けてくれ、将来の食品ロス削減に向けて効果があると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策展開の中には、学校における各教科の指導の充実とあり、主なものは家庭科や栄養教諭などになるかと思うが、給食センター化されると、栄養教諭は業務に手一杯になり、各学校に出向いて食育の授業をすることが難しくなり、食品ロスの勉強が難しいと聞いている。 ・ そういったことと合わせて、子供たちに対して食品ロス削減の授業するためにも、学校における各教科の指導の充実を考えていかなければならないと思う。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭科の中では、SDGs の観点から指導は行われているが、先生によって学習内容に差があるとは思う。
原田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島県の栄養教諭がどういった教育をしているかを聞くと、人参や大根の皮をむかずに調理をするといった内容とのことだった。 ・ 栄養教諭として、子どもたちにどのように教育をするのか、まだ検討の余地があるのではないかと思う。栄養教諭の研修もしっかりやっていただきたい。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小さいころから食品ロス削減の意識を持つことは重要で、それが当たり前として身につくことが必要だと思う。その教育を担う栄養教諭や各教科の教員は新しい知識を得ながら、子どもたちに指導できる力量が持てるように成長していかないと対応できないと思う。 ・ 先ほどのフードシェアリングの話は、パン屋などの飲食店が売れ残りそうなものをアプリで登録すると、近くの人が買いに来るようなイメージであったが、それで間違いないか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間違いない。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ アプリなどは既存のものを使用するイメージなのか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そういったアプリがあるのは存じているが、それを使っていくのか別の方法を使うのかはまだ検討段階である。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査結果を見てみると、事業者の責務を知らない事業者が多く存在し、回答数も少なく、事業者の意識が低いため、資料にあるとおり、事業者の責務の周知や課題について寄り添って取り組んでいくことを意識して続けていかないと、事業者の食品ロスは減っていかないとと思う。 ・ 条例の中には、市民も事業者も食品ロス削減について努めることとなっているが、意識としては分かっているものの、食品ロス削減を推進するために何をしたらよいのか分からないこともある。この点、食品ロス削減推進計画の骨子案では何をしたらよいのかを施策展開で示してくれていると思う。 ・ スローガンも広島らしい親しみやすいものになっていると思うので、それに則って具体的に進めていくことになると思う。
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他に質問はないか。ないようであれば、「食品ロス削減推進計画の骨子案について」皆様にお諮りする。食品ロス削減推進計画の骨子案について、委員の皆様からの意見等を参考にしながら、広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会に諮ることに異議はないか。
各委員	(異議なし)
伊藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なしということなので、食品ロス削減推進計画の骨子案を、本日協議した事項も含め、広島市廃棄物減量化・資源化等推進審議会に諮ることとする。 ・ この他、御意見・御質問等ないようなので、本日より予定していた議事についてはこれで終了する。